

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)  
事業期間を通じた評価

国立大学法人東海国立大学機構 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の事業期間を通じた評価について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり評価結果をお示しします。  
あわせて、本検討会の所見についても別紙のとおりお示しします。

記

A	当初の構想どおりの取組が行われ成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。
---	--

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の  
事業期間を通じた評価

国立大学法人 東海国立大学機構

(検討会の所見)

- 国立大学における初めての法人統合で、難度の高い計画であったが、新法人として両大学の実績・強みを活かした新たな研究組織を立ち上げ、教育に関してもアカデミックセントラルを実現するなど、計画を着実に実現し、法人統合の意義を体現している。KPI に関しては、特に、外部資金の獲得では指標を遥かに超える成果を上げている。経営改革、ガバナンスの強化についても申し分なく、コロナ禍への対応としてのリモート教育による思わぬ進展もあった。国際活動、特に留学生や学生の留学について、物理的な移動を制限されているため、KPI が達成できていないが、i 留学など新たな展開の可能性も提示している。
- 経営基盤強化に向けた種々の取り組みによって、当初目標を大きく上回る共同研究の受入れを含む新規外部資金の獲得に成功している。これらを戦略的に配分するための体制整備など、ガバナンス強化に向けた種々の取り組みも進められている。  
両大学が一体となった研究面での機構直轄4拠点、教育面での機構直轄の新しい教育支援組織の設置などが確実に実施されている。COVID-19 の影響が顕著にみられるものを除いて KPI は概ね達成されおり、今後これらの取り組みが一層推進されることを期待する。
- コロナ禍で達成が困難なグローバル関連の KPI を除いては、順調に進展しており、特に財務基盤の強化についての KPI は計画を大きく上回っている。ただ、その先に繋がる研究力強化、博士人材の育成、マルチキャンパスの構築など質的進化を更に遂げることを期待したい。
- 法人統合の効果が、研究、教育、事務の効率化のいずれにおいても十分に見えてい  
ると言えず、今後期待したい。
- 当初の計画通りに進捗した面、計画を大きく上回って進捗した面、計画を下回った面が混在している。計画を下振れた KPI のなかには、コロナ危機の要因では説明できないものもある。成果目標の設定の時間的な視野を「10 年」と設定しているものが多くみられ、令和3年度の実績見込みの段階で、評価することは難しい。  
名古屋大学が事実上の中心の構想ではあるが、岐阜大学との連携がどのように図られているのかが、管理システムの統合や教育面での遠隔講義システムの構築以外には見出し難い。遠隔講義システムについても、それが実際に両大学の学生にどの程度活用されたのか、教育上の効果があったのかも示されていない。複数大学の統合の事例として、その効果を高めるうえでは、もっと努力できる余地があったのではないかと

次項あり

- 世界屈指の研究大学を目指す努力はまだまだ道半ばのようだが、その目標に向かった姿勢は注目を浴びている。マルチキャンパス構想の変更についても期待している。
- 東海国立大学機構が大型研究大学と地域大学の連携で足踏みしている。当初の目標は、より広域の大学連携を模索していたと理解しているが、それぞれの大学の優位な研究分野を磨くのか、総合大学のアンブレラとして拡大していくのか今後の展開に注目したい。